

松山市教育会情報

発行所 松山市教育会
松山市祝谷町1-5-33
☎ 089-933-0354
ホームページアドレス
<http://matsukyoiukai.main.jp/>
発行責任者 堀内秀樹
編集 調査研究部

令和3年がよい年でありますように



副会長
三好建次



「子規さん俳句かるた」より

松山市教育委員会 編
松山市立子規記念博物館 監修

2021年がスタートして、1か月が過ぎました。遅くなりましたが、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。本年も皆様のお力で松山市教育会を支え、盛り上げていただきますよう、よろしく願いいたします。

さて、今年の初詣は例年とは違い、密を避け分散化されたようですが、誰もが「今年こそは穏やかな1年になりますように。」と心の底からお願いしたのではないのでしょうか。昨年は、本当に厳しい1年でした。本来であれば、待ちに待っていた東京オリンピックが開催され、日本中が熱く盛り上がったはずでした。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により、今もなお日本のみならず、世界中が大きな影響を受け続けています。感染拡大防止のため、今まで当たり前のようにしていたことができなくなりました。特に、経済面では人の往来が制限されたことによる深刻なダメージを受けています。人間社会は人と人の関わりで成り立っているということを改めて感じます。

学校現場でも、3月から今まで経験したことのない状況が続いています。学校行事や集会活動などは中止したり、内容を大幅に変更したりすることを余儀なくされました。活躍の場や大切な思い出づくりの場が少なくなってしまう、モチベーションの源を失ってしまった子どもたちの気持ちを考えると、本当に残念でなりません。学習面では、7時間授業を行ったりICTを積極的に活用したりするなどして、子どもたちの学びの確保、質の向上に努めてまいりました。このように、厳しい状況の中でもいろいろな工夫をしながら、今できることに一生懸命取り組んでいるところです。

ご承知のとおり、新学習指導要領は、実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養を三つの柱としています。小学校では令和2年度から完全実施となりましたが、コロナ禍により臨時休校となったり、人との関わりが制限されたりしていることなどもあり、なかなか前に進めていないというのが現状です。令和3年度からは、中学校でも完全実施となります。新型コロナウイルス感染症が一日も早く終息し、それぞれの学校で「主体的・対話的で深い学び」が展開され、生き生きとした子どもたちの姿が見られるようになることを願うばかりです。令和3年は丑年です。歩みは遅くとも力強く大地を踏みしめ、一步一步確実に前へ進んでいきたいものです。

えひめ教育の日 記念事業**まつやま教育フォーラム 2020 講演会 R2.10.31(土) 文教会館にて****『笑顔の種まき』**

講師 フリーパーソナリティ やの ひろみ 氏

今日は、私が仕事の中からどんなことに気付いて、今どんなことを頑張っていこうと思っているのかという話を申し上げたいと思います。

【現在の仕事】

私は、ラジオの喋り手を23年間しておりますが、最初はしゃべると苦情の電話がかかってきていました(笑)。ただ、そういう「ご指摘」は大事だと思っています。私と違う考え方の意見、例えば、「それはやめとったほうがいいよ」って言ってくれる人の言葉って、大切に受け止めるようにしています。



テレビでもしゃべらせていただいています、夕方のニュース番組の中に「やのひろみの笑顔見つけた」という、完全アポなしロケのコーナーがあります。時々学校も行くんですけど、校長先生に事情を説明して、「それならどうぞ」って言っていただけると、「神様～！ありがとうございます！」と思いながら取材とかさせていただくんです。子どもたちの元気な声を一人でも多くの方に届けられたらいいなと思っています。突然声をかけるのでびっくりされますが、この一期一会のご縁が実に面白い！毎週新しい人に出会います。

【西日本豪雨】

西日本豪雨の後も、そのコーナーで被災地を回らせていただきました。高浜地区で、たまたま出会ったおばちゃんは、自分の家が流されてなくなったんですけど、夜すごい雨で、近所の消防士の兄ちゃんがやってきて、「おばあちゃん、ここにおったら絶対あかんから、今から逃げよう」って説得してくれて。そのおばあちゃんは、ずぶ濡れになって逃げて命が助かっています。「いつも顔合わせている兄ちゃんが声掛けてくれたから私逃げたんやと思うんよね」って言われていて、地域のコミュニティってすごく大事だなって思いました。これって学校づくりとか地域づくりとかにもつながっていくなあと。だから、いろんな方々の話を伺えるというのは、新たな気づきの連続で、結構「毎日が勉強」みたいな感じがあります。

【PTA活動】

うちの子が通っている学校で、PTA会長をやらせていただいています。初めは正直戸惑いましたが、いざやってみるとこれも学びが多いです。やってみて思うのは、保護者もみんな忙しいから、PTAも時代に合わせて変わっていかないといかんな～と。会を減らして、代わりにグループLINEで情報共有したりしているんです。特にコロナ禍で、今年は色々考える機会になりました。「毎年やってるから」っていうだけのものは止めて、本当に必要なもの・大切なものを精査して選択していけたらと思っています。今度人権参観日があるんですよ。ただ、今年は集まれないので、ならば「配信したらどうや」って話になって、放送室で収録しました。「行くのは、小さい子ども

おるけんゆっくり聴けん」っていう声も聞くんですね。家なら暇なときに聴けるし、巻き戻して聴けるし、と。思って。チャレンジしていかないかんって思うんです。仕事をしているときにもこのことを大切にしています。「できるかできんか」ではなく、「やるかやらないか」。何でもやってみて、いかんかったら変えていったらいい。

【シトラスリボン】

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、この春にたった6人で『シトラスリボンプロジェクト』を立ち上げました。リボンの三つの輪は、地域と家庭と職場もしくは学校を意味しています。キャッチコピーとして「ただいま、おかえりって言いあえるまちに」を謳っています。活動が全国ネットのTVに取り上げられ、いまだに連日問い合わせがすごいんです。ここ最近では、PTA、生徒会の学校関係が多いですね。共感の輪が広がっています。

子どもたちが動き始めるとすごいのは、地域を巻き込むスピードが速いってことです。小中学生から、「シトラスリボン作ったんでよろしくお願ひします」って渡してもらったら、地域の人たちは喜んでやってくれるんですね。確信したことは、子どもたちの存在自体が地域の貴重な財産というか、地域資源の一つだということです。

東京の組紐職人さんからも連絡があり、「自分たちにできることをしたい。愛媛の絹糸を使って組紐をプレゼントします」とおっしゃるんです。素敵な発想ですよ。野村のシルク博物館も、「それなら差し上げます」って、プレゼントがプレゼントを呼んで、野村の絹糸を使ったシトラス色の組紐100mになって愛媛に帰ってきました。そのプロセスの中で気持ちを伝え合うっていうか、優しい気持ちがどんどんいろんな人に連鎖していくっていう状況が、今まさに生まれているなと思います。と同時に、それだけつらい思いをしている人もいるんだなということ。最終的には、この活動自体が必要なくなって、消えて無くなるのが我々発起人メンバーの最終目標です。

【えひめ子どもチャレンジ支援機構】

最近、えひめ子どもチャレンジ支援機構にも関わらせていただきました。コミュニティ形成実践事業という90分程度のパネルトークをユーチューブで配信しています（これも本来ならば有客で実施する催事でした）。その中で話題になったのが、八坂小学校での先生の声掛けと子どもたちの対応です。車椅子の講師の先生が来校するとき、おもてなしするにはどうしたらいいか、先生は何も言わずに子どもが考える。そしたら、「学校案内しよう」って決まったらいいですよ。講師の先生は、「階段を車椅子ごと担がれる」って覚悟したらしいんですけど、「ここにいてください」とテレビモニターの前へ。何と、iPadを持って子どもたちが、「わー」って持って動き回って、リモートで、「音楽室ここです」。講師の先生が、「うわ、すごい。ちょっとピアノでも弾いてみてよ」って言ったなら、隣にいる女の子が、「私弾きます！」って音楽室に走って行って、ピアノを弾いて聴かせてくれる。その人がどうやったら喜んでくれるかなって考えるような授業は、本当に実践に近いというか、幸せに近いと思います。生き方にも多様性があって、いろんな幸せがあって、違いも全部認め合いながら、みんなが共に生きていけたらいいなっていうのをこの仕事で学びました。

私は、人から話を聞き、それを発信するくらいしか自分から生み出せるものがないので、いろんな人に出会って学ばせてもらっています。今日の話も私のブログやSNSで発信します。興味があったらメッセージも送れますので、感想を教えていただけたら幸いです。まだまだこれからも、一生懸命勉強して、いろんな人を笑顔にできるように頑張っていきたいと思います。どこかでまた、次はマスクを外して、お声掛けください。

ご清聴ありがとうございました。

紙面講座

知的障がい教育における「主体的・対話的で深い学び」の実現

愛媛県総合教育センター 教育支援部

特別支援教育室長 山内 望 先生

今年度はコロナ禍により、例年行っている「教育講座」を開催することができなかった。そのため、本号では愛媛県総合教育センターに依頼し、「紙面講座」として「知的障がい教育における『主体的・対話的で深い学び』」について寄稿していただいた。多様な配慮を必要とする児童生徒が増えてきている昨今、本稿の内容は、新学習指導要領の趣旨を生かした授業改善を図る上で大きなヒントになるものと考えます。

はじめに

新学習指導要領では、児童生徒に必要な資質・能力を身に付けるために、質の高い学びを実現していくこと、そのために「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点（以下「三つの視点」という。）から授業改善を図ることの重要性が示されました。知的障がい教育における授業づくりは、これまでも児童生徒の主体性を引き出したり、人との関わりを豊かにしたりすることを重視してきました。よって、求められる質の高い学びを実現する授業づくりは、全く新しい考え方で進めるものでなく、これまでの授業づくりで重視してきたことを踏まえつつ、特に「深い学び」という視点を意識しながら授業改善を図っていくことが重要だと考えます。

そこで本稿では、知的障がいのある児童生徒の「深い学び」の姿の捉え方を押さえた上で、三つの視点からの授業改善を図っていく際のポイントについて述べていきます。

1 知的障がいのある児童生徒の学習上の特性及び教育的対応の基本

知的障がいのある児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、その学習上の特性及び教育的対応の基本を理解して指導することが前提となります。特別支援学校学習指導要領解説（各教科等編）に示されていることは、以下のとおりです。

- 知的障がいのある児童生徒の学習上の特性（一部抜粋）
 - ・ 学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場で生かすことが難しい。
 - ・ 成功経験が少ないことなどにより、主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていないことが多い。
- 知的障がいのある児童生徒の教育的対応の基本（一部要約）
 - ・ 日常生活や社会生活、職業生活に生きて働く力が身に付くようにする。
 - ・ 生活に結び付いた具体的な活動を学習活動の中心に据え、実際の状況下で指導する。
 - ・ 児童生徒の興味や関心、得意な面に着目し、教材・教具等を工夫する。
 - ・ 集団において役割が得られるよう工夫し、活動を遂行できるようにする。
 - ・ 成功経験を豊富にし、充実感や達成感、自己肯定感が得られるようにする。

2 「深い学び」の姿の捉え方

新学習指導要領解説（総則編）には、「深い学び」について「習得・活用・探究という学びの

過程の中で、各教科等の特質に応じた『見方・考え方』を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう『深い学び』と示されています。知的障がいのある児童生徒は、思考・判断・表現することが苦手とみなされてきましたが、知識・技能を習得し、実際的な生活の中で行動する背景には、必ず思考・判断を伴っているはずです。つまり、知的障がいのある児童生徒の「深い学び」の姿とは、実態に応じた違いはあるものの、先述した姿と基本的に変わるものではありません。ただし、「深い学び」の姿を見取っていくためには、児童生徒の思いや考えに目を向け、言動への表れを丁寧に捉えるとともに、指導計画作成段階において、そのような場面を意図的・計画的に設定することが求められます。

3 三つの視点からの授業改善を図るポイント

(1) 育成すべき資質・能力の明確化

「主体的・対話的で深い学び」自体が目的化してしまうと、「活動あって学びなし」となります。三つの視点は、育成すべき資質・能力を育むための授業改善を図る視点です。授業を計画する際は、まず、単元や題材に関する児童生徒一人一人の実態を把握し、各教科等を学ぶ本質的な意義や目標を踏まえて、育成すべき資質・能力を三つの柱（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」）で明らかにすることが必要です。

(2) 綿密な単元（題材）計画

授業を計画する際、1単位時間の授業の中に「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を全て含めようとするのではなく、単元全体や学習のまとまりを見通して、三つの視点からの授業改善を図っていくことが大切です。つまり、質の高い授業を実現するためには、育てたい力を意識して、これまで以上に綿密に単元計画を立案することが求められます。

(3) 必然性・必要性のある活動設定

授業を課題解決のプロセスとすることが重要です。そのためには、児童生徒にとって必然性・必要性のある活動を設定しなければなりません。児童生徒一人一人が「なぜ」「何のために」といった学ぶことの意義や意味を理解することを、これまで以上に重視しましょう。

(4) 有意義な学習の振り返りと発展

自分が考えたり体験したりしたことを振り返りながら、自身の取組を意味付けたり、価値付けたりすることは、意欲の向上につながります。形式的ではなく、一人一人の学びを確かなものにしていく段階として振り返りの場面を大切にしていくことで、質の高い学びにつなげることができます。また、身に付けた知識や技能を活用する学習活動や、学んだことを生活に生かすことを意図的に取り入れる働き掛けも大切にすべきです。

(5) 学習評価と授業評価

単元や題材ごとに、育成すべき資質・能力が身に付いたかを、3観点（「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む力」）で学習評価を行うとともに、三つの視点から授業評価を行います。授業改善のPDCAサイクルを回す上で、特にCA（評価・改善）の実効性を高めていくことが重要です。

おわりに

愛媛県総合教育センター相談支援部特別支援教育室では、今年度から研究主題「知的障がい教育における『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善に関する研究 -生活単元学習の授業づくりを通して-」を設定し、愛媛県立みなら特別支援学校を協力量校とした2か年の研究をスタートさせました。令和2年度調査・研究発表会（オンライン開催予定）では、今年度の取組の成果を発表しますので、ぜひ御参加いただき、忌憚のない御意見をお聞かせください。

令和元年度 教育功労者

松山市教育会

松山市教育会では、本年度5月16日の松山市教育会定期総会において、以下のとおり、9氏に第53回教育功労賞をお贈りする予定にしていました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、定期総会が書面表決となったため、直接お渡しすることができませんでした。受賞者の御功績を紹介します。

今井 秀明 氏



小学校教員として36年間教育に情熱を注ぎ、誠実に児童の指導に取り組んできた。また、松山自然科学教室などにも積極的に参加し理科教育の発展に寄与した。

退職後は、愛媛県退職公務員連盟事務局次長、愛媛県教育会文教月報編集委員、松山市教育会味生第二支部長などの職を歴任し、教育会の発展に尽力した。平成19年から8年間は、味生第二児童クラブの会長として児童の健全育成に大きく貢献した。平成21年から4年間は、味生地区国松町内会会長として町内行事について、住民の理解と参加を得ながら円滑に運営した。平成28年からは味生公民館平和教育講師として、毎年6年生を対象に戦争時の生活体験を他の講師と一緒に話し、平和の語り部として戦争の悲惨さや平和の大切さなどについて伝えている。

大 森 理 氏



英語科教師として、文部省認定英語検定2次面接委員や問題作成委員、中学校教科書採択委員、愛教研英語科委員長等の役を務め、県下の英語教育をリードした。

退職後は、新規採用教員の指導に熱心に取り組んだ後、現在は荏原小学校の学習支援ボランティアとして英語指導に大きく貢献している。郷土史教育への研究姿勢・情熱もすばらしい。久谷地区をくまなく歩き、史跡を中心に調査・研究を深め、久谷地区の時代の経緯と変遷を追究してきた。その内容はテレビや書籍等で大きく紹介された。今も継続して「里山散策」について調査・研究を進め、荏原小学校の総合的な学習の時間のゲストティーチャーなど、様々な講師を引き受けている。

齊藤 照夫 氏



昭和57年に公立小学校に赴任し、長年にわたり小・中学校教育の推進に尽力した。平成15年度から教頭として、また、平成23年度からは校長として、保護者や地域住民の教育振興への熱意を受け止め、校区や学校環境の特性を生かした教育を推進し、開かれた学校づくりに向けて、学校経営にリーダーシップを発揮してきた。平成19年度から4年間、愛媛県教育委員会義務教育課指導主事として県内教職員の指導力向上を目指し、熱意を持って職務に取り組んだ。また、愛媛県教育研究協議会道徳委員会委員長を務め、県内の道徳教育の改革に取り組んだ。

令和元年度には、松山市教育研究協議会において会長に就任し、松山市教育の進展に寄与するとともに、教職員の身分・給与並びに勤務条件の改善、ワーク・ライフバランスへの支援等に努めた。

相原 孝裕 氏



令和元年度松山市中学校長会長、平成28～30年度愛媛県小中学校長会研究委員長として、市や県の校長会の研修や運営に携わった。

松山市教育委員会指導主事を8年間務め、市内小中学校の特別活動や英語教育の発展に寄与した。また、愛媛県教育研究協議会外国語委員会委員長を5年間務め、英語教員の指導力と生徒のコミュニケーション能力の向上に尽力した。また、長年、英語主任会長として市内中学校の英語主任をまとめ、市教研大会の企画運営や若手英語教員の育成に取り組んだ。平成26年には市教研法制対策部長を務め、教職員の資質・能力の向上を図った。

東中学校長として、小中連携、愛媛大学との連携、キャリア教育を推進し、地域とともに歩む学校づくりに取り組んだ。

岩本 正昭氏



事務長として6年、学校事務業務を32年間務め精励してきた。その誠実さと学び続ける向上心で、範を示し、優れた資質と指導力を発揮し、学校事務職員の育成指導等、真摯に取り組み多くの功績を残した。

平成30年度より松山市北部地域の地域長として、北条共同学校事務室室長、風早共同学校事務室室長、拠点校事務長として、共同処理業務の明確化を図りながら、地域内の学校における質の高い事務処理体制を構築し、学校教育の充実に大きく貢献した。また、地域長会では、全市的な課題やその改善策等についての協議の中心となり、学校のためになる業務改善や情報交換等、組織的な対応を図り、多くの関係者に尊敬され、学校事務の発展に寄与した功績は誠に顕著であり、貢献度は極めて高い。

坂本 浩氏



学校事務職員として38年間勤務し、その間、松山市教育研究協議会事務職員部長や愛媛県教育研究協議会事務職員部松山支部長を務めるなど、指導的立場で事務職員全体を牽引した。特に平成26年度からは事務長に就任し、大洲市や松山市の学校事務共同実施において、室長として、円滑で確実な事務処理と若手事務職員の育成に尽力した。さらに、平成30年度からは松山市の共同処理地域再編により、道後・奥道後地域長となり、構成校の校長と連携し、各共同学校事務室業務の取りまとめと構成員の指導監督を誠心誠意行うとともに、事務職員未配置校への援助を献身的に行った。

温和で誠実な人柄、礼儀正しく謙虚な対応、高い専門性や豊かな経験を生かした迅速で丁寧な仕事ぶりから、職員はもとより、保護者や地域の方からも厚い信頼を得た。

竹内 康敏氏



明朗快活な性格で、確固たる教育信念を持って優れた教科経営を実践した。各勤務校においてリーダーシップを発揮し、他の社会科教員をリードした。日々熱心に教材研究に励み、充実した授業実践を展開した。その優秀で精力的な教科指導は、周囲の教職員のよき手本となった。

また、愛媛県教育研究協議会社会科委員会で18年間貢献した。特に編集部長の要職を10年間担当し、教科冊子「しゃいか研究」の定期的な発行に尽力した。平成10年度四国社会科研究大会等、大きな研究大会においても、企画、運営の中心として、大会の成功に貢献した。その活動範囲は勤務校にとどまらず、本県社会科教育の充実・発展に大きく寄与した。

向井 京子氏



愛媛県の教員として38年間勤務に精励してきた。教育者としての信念を持ち、日々使命感を持って職務に取り組んでいる。学習指導においては、題材に対する深い洞察力に基づいた、興味を喚起する授業構成で児童を飽きさせず、着実に学力を高める指導力を持っている。特に、国語科指導には定評があり、松山市国語科主任会長、もじのけいこ・力だめし作成委員など、指導的立場として国語科教育の充実・発展に寄与してきた。生活指導面では、気さくに声をかけ、児童と積極的にコミュニケーションを取り、いかなる時も苦楽を共にしようとする姿勢で、児童・保護者から絶大な信頼を得た。各種研修に率先して参加し、資質向上に努めるとともに、後進の指導にも積極的に取り組み、学校全体を支える存在として多大な貢献をした。

沖田 知子氏



学校栄養職員として、松山市や伊予市の小中学校で40年間勤務し、学校給食の献立作成や調理員への調理指導、衛生管理等に尽力してきた。特に近年は、食物アレルギー対応や食育の推進などに力を入れ、児童・生徒の健全な育成に関わる役割を担い、松山市内全体のレベルアップに貢献してきた。学校栄養職員として、調理員の指導や学校給食調理場の適切な運営に努める一方、学校の教職員の一人として校内の食の安全について細心の注意を払うなど、学校給食調理場と学校現場とを結ぶパイプ役として職責の遂行に努めてきた。

明るく温和な性格で、何事にも誠心誠意取り組み、調理員への的確な指導はもちろん、校内の教職員を陰で支える貴重な存在であり、本市の教育への貢献度は多大なものがある。

「えひめ教育の日」記念事業

「まつやま教育フォーラム2020」高齢慶祝者(傘寿)名簿

	氏名	支部		氏名	支部
傘寿	藤本 宜彦 様	味酒	傘寿	坂本 久美子 様	余土
傘寿	土居 貴美 様	味酒	傘寿	松本 紀 様	久米
傘寿	浅川 愛明 様	東雲	傘寿	重松 明俊 様	浮穴
傘寿	久保 清香 様	素鷺	傘寿	田中 綾子 様	石井
傘寿	向井 千鶴香 様	素鷺	傘寿	八幡 進 様	石井東
傘寿	永野 孝明 様	潮見	傘寿	成見 登志美 様	味生第二
傘寿	門屋 淳子 様	潮見	傘寿	福井 壽泰 様	さくら
傘寿	鳥田 桂子 様	味生	傘寿	三好 浩 様	さくら
傘寿	矢野 肇 様	湯築	傘寿	森岡 フミエ 様	河野

思い出の学校

思い出の学校

藤本 宣彦 (味酒支部)

昭和38年、三崎町立釜木小学校(現・廃校)に赴任する。この年は三八豪雪で、小田深山は4メートルの雪に埋もれた。翌39年は、東京オリンピック開催と新幹線の開通を控え、日本は、高度経済成長期に差し掛かっていた。

バスで、八幡浜から3時間。そこは「釜木口」と書かれた停留所と小屋以外は何もなく、目の前には宇和海がパノラマのように広がっていた。おじさんが草刈りをしている。聞くと、学校は上手(瀬戸内側)にあると言う。谷筋のごつごつとした小道を下ること15分。海岸の山の斜面に集落が広がっていた。

夕方の校庭では子どもたちが大勢遊んでいた。「だあら、誰。」と5年生らしき男の子。「今度、ここに来た先生よ。」「ふーん。」木造平屋の校舎と斜面の家々を見上げながら、思わずため息が出た。

当時、児童数は200名を超えており、8名の職員と共に学校生活が始まった。いきなり、入学式で「君が代」を弾くことになり猛練習。声とピアノが合ってなかったのを思い出す。宿直が週2回あり、時には住宅で寝るより多い月もあった。初給料は、1万6000円。出だての1万円札が入っていた。

苦労したのは食事であった。電気釜が売り出された頃で、ご飯は何とかなったが、ジャコ天・イリコ・ソーセージのおかずが続き、栄養不足で2・3か月は体がふらついていた。

5月。初めての授業参観日。5年生の国語「鶴の恩返し」。教室の後ろは、野良着姿の母親で一杯。授業後、一人が声を掛けてくれた。「よかったで。」何とかやれそうだと感じた。

村は貧しく、父親は大阪に出稼ぎに出て、盆と正月にしか帰らない。子どもたちは母親を手伝い、芋の収穫期には芋切りに夜遅くまで励んでいた。登校してきた子どもの手は、芋アクで黒く光っていた。

交通の便が悪く、他地域との交流も少ない不便な土地柄ではあったが、酒好きな先輩や村の青年、そして子どもとの楽しい日々だった。今も、年に3回はアジ釣りに出向く。村は静まりかえり、人影はない。でも、あの頃が浮かぶ。

思い出の高浜中学校 一生徒の優しさと情熱一

土居 貴美 (味酒支部)

私が8年間勤めた松山市立高浜中学校は、瀬戸内海に面した高台にあり、水平線に沈む大きな夕日は、言葉に言い尽くせない素晴らしさで、この地に永遠に残る地域の財産だと思ったものだ。

この学校では、国語の教師として、また、学級担任として、充実した日々を重ねることができた。授業中、彼らと藤村の「初恋」を歌ったり漢詩を吟じたりした日、狂言(萩大名)を演じた日や「奥の細道」を歩いてみたいと夢を語り合った日、万葉集の学習では、明石大戸に沈む夕日を高浜の夕日に重ねて、その和歌の思いを深めた日など、生徒とともにあった国語の学習は実に楽しかった。

本校勤務7年目2年生を担当した年に、高学年で学級崩壊や校内暴力事件が起こり、教職員はもとより、PTAの方々や地域の皆さんが一丸となって生徒理解に努め、学校立て直しに全力を尽くしたことがあった。この日々の中での、2年生のとった積極的な行動が忘れられない。

彼らは、機会あるごとに「誇れる高中の歴史づくりへの夢」を語り行動し続けた。真剣な学習への努力はもちろん、清掃活動の充実、傷んだところの修繕、落書きを消すペンキ塗り等を繰り返した。そのために教室のドアが重くなって開きにくくなったことは一度や二度ではなかった。

彼らは、最高学年になった時、1年間の目標を立てた。それは「学年全員が自分の希望する進路を開いて卒業する」ことだった。それが「誇れる高中の歴史づくり」のひとつになることを信じて!

彼らは、そのために習熟度別の学習相談を希望した。それも学力に不安を持つ仲間を大切にしたい学習相談で、学力に不安の少ない生徒は協力学習の形を申し出た。教師からではなく、生徒たちの熱い思いとして、この学習相談を実施できたことは、私たち担当教師として大変心強いものだった。

彼らは、全員それぞれの進路を開いて、胸を張って堂々と卒業していった。その自信に満ちた彼らの姿を、私はいつまでも忘れることができない。

思い出多い「明神小学校」

矢野 肇 (湯築支部)

初めて上浮穴郡に赴任したのは、旧久万町の明神小学校だった。ずっと中学校の数学の教員だったので、私にとって小学校は初めて。不安と心わくわくした気持ちで着任した。ところが、校庭内に幼稚園があるので、教育長さんに「学校の中に幼稚園があるのですけど」と電話すると、「幼稚園の園長は、校長先生が兼任してもらっているのです、よろしく頼みます」とのこと。私はこれから幼児教育等も勉強することを決意した。退職して私立幼稚園に勤められるきっかけになった。

今でも鮮明に思い出すのは、4月4日の朝、目が覚めると周囲が非常に明るく、窓を開けると真っ白な雪の原だった。地元の方から、「ビール瓶は家の外に置くと凍って割れるよ、冷蔵庫のほうが温かいくらいだ」と言われ、さすが寒さの厳しい明神地区だと実感した。

毎月、久万町の町民館で会があるので、先輩の方から、「冬になるとバイクでなく車で行かないと危ない。久万町にある自動車教習所で車の免許を取ったほうがいいよ」とご忠告いただいた。その結果、ナイターで教習所に通い、夏休みの終わりに、55歳で初めて普通車免許を取得した。これで、私の人生は変わり、行動する範囲も広がり、世界が変わった。地域の方々に支えられ、特に、四季の会のお世話で、学校の玄関に門松を作っていただいた。桜が満開の時には、校庭の夜間ライトをつけたらという声があって、教育長、町長さんと交渉した結果、実現し、夜間の桜を今も楽しんでいる。

もう一つの思い出は、ネコである。赴任してしばらくして、学校の下で4年生のMさん(女児)が、「この子猫どうしましょう」と住宅に連れてきたので、仮に飼った。彼女は友達と給食の牛乳を飲ませに来た。名前はチャーミー。松山へ連れて帰り、23年間生き、3年前、天国へ。

思い出深い明神小学校で3年間勤務させてもらい、地域の方々に深く感謝している。

卒寿(80歳)を迎えて

成見 登志美 (味生第二支部)

令和2年10月31日午前10時より、新装なった文教会館で「まつやま教育フォーラム2020」が開催された際、その席に我々80歳のOBも招待され、大変有り難く思いました。

多数の来賓や現職の先生方との厳粛な開会式後、やのひろみ氏の「笑顔の種まき」という多様な内容の講演会もあり、大変有意義なものでした。その後、参加の5名で会食し、祝いの膳もとてもおいしくいただきました。本当に感謝です。

当日午後当館で予定していた三八会(愛大38年卒)もコロナの影響でやむなく中止せざるを得なくなったこともあり、せめてものミニ同級会となりました。久しぶりの再会に懐かしく思い出話に花を咲かせました。

振り返ると38年間の教員生活では7校に勤務しましたが、どこも楽しいものでした。新卒3年目に赴任した西条市の黒瀬小学校は、今でもその風景が目に浮かんできます。

山々に囲まれた広々とした田園の中に加茂川が流れ、つり橋を渡ると山際にこじんまりとした平屋の校舎と小さな運動場が現れ、まるで絵のような光景でした。30名余りの子どもたちと4人の教員の複式学級で、1、2年生12名の担任となった私は、かわいい子どもたちと毎日新しい体験をして楽しく過ごしましたが、1年で西条小学校へ転任となってしまいました。

先日、車で石鎚山の麓の成就社へ参拝した際、黒瀬湖畔を通りましたが、今はダム湖に沈んで何も見えなくなってしまったあの風景が懐かしくもう一度見たいものだと思います。その後は、松山市の大規模校で30年勤務しましたので、あの「二十四の瞳」の世界は、私のかげがえのない心の光景となってしまいました。

退職して20年、その間、民生児童委員(主任児童委員)と味生地区社協員として15年間、今は松山市社会教育委員と文科省居場所づくりの学習教室ボランティアを20年間、いつも子どもたちから元気をもらっていて幸せな毎日です。

趣味・ボランティア**俳句と私 —その出会いと学び—**

吉田博子(潮見支部)

30代後半、当時の指導主事の先生に、「国語の教師は俳句の経験がある方がいいよ。素晴らしい先生がいるから行きましょう。」と誘われ、俳句の世界に一步足を踏み入れた。上原白水先生と「御幸句会」との出会いである。それは上原先生が潮見小学校の校長時代に関係の深い教員及び、奥様、また奥様の知人などが集まる温かく家庭的な雰囲気を持つ句会だった。奇しくも私は潮見生まれで、潮見小は母校。何かのご縁も感じられた。

句会は先生のご自宅で開催される。みんな気さくで明るい。教員が多いこともあって、常に的確かつ活発な句評が飛び交う。最後に白水先生の歯に衣着せぬ辛口批評が入ると、一同「う～ん。」と納得。だがその奥には温かさがにじむ句評。俳句の奥深さを厳しくも楽しく学べて勉強になった。

白水先生亡き今は愛弟子の木下節子主宰のもと、御幸句会は以前と同様、温かく活力ある句会として続いている。今も教員の多い句会で、その元教員たちは、それぞれ俳句結社『泉』の中心的な立場で活躍中。私も『泉』の編集長として、毎月の俳誌発刊のため忙しい毎日を送っている。

そんな俳句と出会って、私は多くのことを得たり学んだりできたと感謝している。

例えば①自分史としての作品が残る ②『歳時記』で日本の文化や美しい言葉を知ることができる ③国語の専門性に生かされた(教科指導はもちろん、他の俳句関係の仕事や俳句大会の審査など)

④脳トレやボケ防止に効果的 ⑤俳句仲間として、退職後も何人もの教員仲間との有意義な関係・交流が続いている ⑥いつでもどこでもできる趣味として今後も楽しめる、等々。

そんな中でも『歳時記』との出会いは意義深く貴重。時候や天文、地理、人事、動植物、行事などに分類される季語のあれこれ、またその奥深さなどを知ると心豊かになった。そして、美しい日本語に触れ、日本文化の素晴らしさなどを改めて認識するきっかけともなったのである。

とは言え俳句作りはなかなか難しく、毎月の句会に投句するための俳句作りで今も四苦八苦。満足するような俳句はなかなかできない。俳句の仕事ばかりでなく、民生委員や様々なボランティア、また孫の世話や野良仕事などで忙しく、俳句を作る時間があまりないのも事実。でもそんな逃げ口上で自分を甘やかしては駄目と反省もしきり……。

今後の人生をより豊かに、より充実させるためにも俳句はかけがえのない趣味として、また生活の一部としてぜひ続けていきたいと思っている。「継続は力なり」である。

活動の様子**令和2年度の文化講座について**

福利厚生部

本年度は六つの文化講座を開講しています。会員の皆さんは、和やかな雰囲気の中で熱心に受講され、楽しまれています。

●川柳教室

第3水曜日の午後を開講しています。10名の会員が、栗田忠士先生のご指導で川柳作りに励んでいます。

●俳句交換会

11名の会員の俳句が事務局に集まり、毎月、交換句集を発行しています。吉田晃先生、吉田博子先生のご指導を受けながら、句作を楽しんでいます。

●ヨガ教室

第2土曜日の午後を開講しています。15名の会員が、脇坂恭子先生のご指導でヨガに親しんでいます。

●詩吟教室

月2回月曜日の午前を開講しています。11名の会員が、全国大会で優勝された伊賀上峰山先生のご指導で活動しています。

●プログラミング教室

年10回、松山市教育研修センターを会場に土曜日の午前中に開講しています。小学校の学習指導要領で、プログラミング教育が必修となったことを受け、現職を対象に開講しています。5名の会員が畑中靖祥先生のご指導で研修しています。

●ピラティス教室

第1土曜日の午前を開講しています。20名の会員が、木下絵理先生のご指導でピラティスに親しんでいます。

年度末に、現職・OB会員全員に、令和3年度の文化講座の案内文書を配布します。興味をお持ちの方は、ふるってお申し込みください。今年度受講されている方も、改めて申込書をご提出ください。賛助会員も申し込むことができます。

なお、会員のニーズに合った新しい講座の開設も、検討していきたいと思っております。ご要望があれば、松山市教育会事務局までご連絡ください。

ブロック編成

区名	学 校 名	区名	学 校 名
1区	番町小、味酒小、八坂小、東雲小、清水小、姫山小、 勝山中、東中	5区	堀江小、潮見小、久枝小、和気小、みどり小、 鴨川中、内宮中、北中
2区	新玉小、雄郡小、素鷲小、桑原小、たちばな小、双葉小、 拓南中、雄新中、桑原中、城西中	6区	湯山小、日浦小、道後小、湯築小、伊台小、五明小、 道後中、湯山中、日浦中、旭中
3区	味生小、生石小、垣生小、余土小、味生第二小、さくら小、 津田中、垣生中、余土中、西中	7区	浮穴小、石井小、荏原小、坂本小、椿小、石井東小、石井北小、 久谷中、南中、南第二中、椿中
4区	三津浜小、宮前小、高浜小、興居島小、中島小、 三津浜中、高浜中、興居島中、中島中	8区	久米小、小野小、北久米小、福音小、窪田小、 久米中、小野中
		9区	浅海小、難波小、立岩小、正岡小、北条小、河野小、栗井小、 北条北中、北条南中

ブロック紹介

第6ブロック理事 平松 恭助

第6ブロックは、松山市の北東部、道後・湯築・湯山・伊台・日浦・五明の6支部で構成されています。小学校は6校、中学校は4校、合わせて10校あります。OB会員は道後・湯築・湯山・伊台の4支部のみで48名で活動しています。86歳以上が25%と高齢化が進んでいます。本ブロックの特徴として、66歳から75歳の会員が15%と、積極的に諸活動に参加することのできる人数が少ないということが課題です。

第6ブロックでは、毎年三つの活動を行っています。8月の教育懇談会（昼食会）、秋の観劇懇談会、そして、1月の会員懇親会です。これらの活動を通して、情報や意見を交換し、会員相互の親睦を深めることとともに、各支部の課題等を共有して、支部間の連携を図るなどしており、ブロック内を温かく見守る雰囲気をつくっています。支部の中には、諸般の事情から懇親を深める会がもてない支部があり、ブロック活動がそのまま支部活動となっています。令和元年度初会合となった、8月30日の教育懇談会では、OB会員9名、現職会員18名が、各学校の取組を聞いた後、昼食をとりながら楽しく歓談しました。

今年度、コロナ禍の影響でブロック活動は全くできませんでした。ブロック活動費は、各小中学校に対し運動会練習の飲み物にでも使っていただけたらと思います。運営補助金として配布しました。来年度はブロックとしての活動ができるように祈っています。

今後、支部の再編成、ブロック活動の在り方等、松山市教育会全体で考えていかなければならないと切実に思っています。

『松山市教育会情報』をご愛読いただきありがとうございます。本誌は、例年、年間3回発行していますが、本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い各種会合の開催中止が続いたため、理事会の承認を得て、第102号の発行予定を10月から2月に変更し、ページを増やして発行させていただくこととなりました。このような時だからこそ、現職とOBをつなぐ情報誌としての役割をしっかりと果たしていきたいと存じます。（調査研究部長）